

日本医史学雑誌 第58巻 第3号

目 次

原 著

- お玉ヶ池種痘所の設立に参加した上山藩医 奥山玄仲 …………… 深瀬 泰旦 301
- イブン・ナフィースの血液理論再考…………… 矢口 直英 309
- エフェドリンの歴史
——歴史遺産と現代社会への影響——…………… 齋藤 繁 321
- 「哺乳瓶の子」それとも「おっぱいの子」？
——20世紀ドイツにおける乳児保護，乳児の栄養状態と乳児死亡——
…………… イェルク・フェーゲレ，訳：梅原 秀元 331
- 『史記』倉公伝における医学理論の検討 ……… 鈴木 達彦，遠藤 次郎，花輪 壽彦 345
- ブールハーフェ（1668～1738）の『医学教程』…………… 坂井 建雄，澤井 直 357
- 晩年の存覚と『看病用心鈔』の書写…………… 小山 聡子 373

ひろば

- ガレノスと古代ギリシア・ローマ医学史研究の現在
——ガレノス『解剖学論集』の刊行によせて——…………… 今井 正浩 385
- 適塾記念会 緒方洪庵全集編集委員会 編
『緒方洪庵全集』第一巻・第二巻（『扶氏経験遺訓』上下）
——刊行によせて——…………… 浅井 允晶 389
- 京都大学整形外科学教室初代教授 松岡道治の生い立ち …………… 廣谷 速人 393

資 料

- 華岡鹿城末裔所蔵の「華岡門人録」について（2）…………… 梶谷 光弘 401
- 池田文書の研究（43）…………… 池田文書研究会 411

記 事

- 例会記録 …………… 421

例会抄録

- 東京・青山霊園ハルツホルン（Henry Hartshorne：華爾都保崙；乞治呵倫）の墓
…………… 樋口 輝雄 421
- 先輩たちの筆跡…………… 岡田 靖雄 423

書 評

- 新村拓著『国民皆保険の時代——一九六〇，七〇年代の生活と医療——』
…………… 宮武 光吉 425
- 香月牛山原著，中村節子翻刻・訳注
『老人必用養草——老いを楽しむ江戸の知恵——』…………… 平尾真智子 426
- 坂井建雄編『日本医学教育史』…………… 神津 忠彦 427

《本号の表紙絵》

シーボルト旧蔵の鍼箱 (オランダ国立民族学博物館所蔵)

シーボルト (1796~1866 Ph.Fr. von Siebold) 旧蔵にかかる歴大な日本関係コレクションは蘭・独・英・仏・露・日の各機関に分蔵されるが、第1回日本滞在中 (1823~1830) の収集資料の多くはライデンに伝存し、ライデン大学図書館貴重書室・国立植物標本館附属図書室・国立民族学博物館に分蔵されている。そのライデン所在の資料群のうち、医学文献は本草を除けば鍼灸関係が多くを占め、そして大学図書館に所蔵されるその鍼灸文献の殆どは徳川幕府の鍼科医官・石坂宗哲 (1770~1841) から贈られたものと考えられる。文献の中で特に貴重性が高いのは、シーボルトが門人戸塚亮斎・美馬順三・石井宗謙による蘭訳をもとに『バタヴィア学芸協会雑誌』14号 (1833) で紹介した、鍼灸に関する石坂宗哲の原著4種、『知要一言』(請求記号 UB1092) 『九針畧説・痘瘡麻疹の病源・灸法略説』(請求記号: UB1103) の宗哲自筆稿本である (詳しくは『日本東洋医学雑誌』62巻6号所収の拙稿、および本誌57巻3号所収のヴィグル・マティアスと筆者の共著を参照)。

その他に、経絡人形・仰伏経絡図・鍼・鍼箱、および一部の文献が国立民族学博物館に所蔵される。「九鍼」(漆塗箱入り、現存は7本、請求記号 1-618) と「微鍼」5本 (漆塗箱入り、請求記号 1-631) については、前掲拙稿に写真を添えて紹介したので、ここではその他の鍼箱を掲げよう。なお、石坂宗哲は1825年に神戸源蔵製「微鍼」(1番~7番)、1826年に神戸古平製「銀製九鍼」1箱をシーボルトに贈っているから、この「九鍼」「微鍼」も石坂宗哲が贈った可能性は十分にある。

上・中 (請求記号 1-617) の鍼箱は外寸、H11,6 糎×W2,5 糎。上蓋の外側には菊亀甲文、内側には梨地に雲龍文様の、ともに手のこんだ蒔絵が施され、銀製と見られる打鍼用の槌 (H11,0 糎) を収めた、携帯用の鍼箱。今は失われている鍼を収めるスペースには金糸を多用した豪華な裂が敷かれている。菊花があしらわれた槌頭は、上蓋に円く空けた穴にはめ込むように造られていて、意匠としても優れている。シーボルトの初版本 *NIPPON* 図版に、鍼箱の内景と槌が極めて正確に描かれていて、紛れもないこの鍼箱であることが分かる。

下 (請求記号 1-640) の鍼箱は外寸、H20,5 糎×W8,3 糎。上蓋の甲に、女性が男性患者に施灸する図が、螺鈿細工によって細緻に描かれる。外側の四面には、同じく螺鈿細工によって梅の開花と蕾を散らしている。内側には萌葱色の天鵞絨が敷かれ、上蓋裏にはともに失われているが鉄みと打鍼用の槌? が収納できるように作られている。鍼台1枚が附属している。施灸の図は意匠としても風俗史料としても珍しく、シーボルトの注文による可能性も考えられるだろう。

NIPPON の図版に載る上の鍼箱は、その出版以前にシーボルトのコレクションであったことが分かる。下は物自体に旧蔵者や贈答者に関する手がかりはないが、請求記号が「1-何」はシーボルトコレクションに由来するという。 (町 泉寿郎)